

青梅市文化財ニュース

第351号

平成29年1月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

小曾木地区の富岡からも、富士山が見える

静岡県と山梨県にまたがって聳える富士山は、2013 年、世界遺産として登録された。世界遺産には自然遺産と文化遺産があるが、富士山は文化遺産の分野である。

周辺を見下ろすような標高 3,776m の高さで、裾広がり の円錐形をした山容は、どこから見ても美しく、また、季節によって、天候によって、宗教心を持ちたい気持ちになる。富士山そのものを神と見立てる信仰は、木花開耶姫を祭神とする富士信仰である。

すでに奈良時代には、富士山を神とする浅間信仰が行われていたと云う。明治5（1872）年に太政官布告が行われるまで、二合目より高い場所は女人禁制で、男性でも富士登山にはそれなりの費用が必要であったため、富士山を遥拝できる身近な場所に富士塚が築かれ、あるいは浅間神社が祀られた。青梅市内では新町小学校の北側に、高さ約 5.5m の富士塚があり、（但し、饅頭状になっていることから「古墳」との説もある。）近くでは JR 西立川駅南口で、徒歩約 5 分の場所に、立派な富士塚がある。

富士山がよく見える場所は、「富士見町」の地名が多い。都内では、板橋区・千代田区・練馬区（台）・国立市・国分寺市（富士本）・立川市・調布市・西東京市（富士町）・八王子市・羽村市（富士見平）・東村山市・日野市。何と 12 の自治体内に富士見町があり、また、富士山がよく見える坂道は「富士見坂」と称され、坂の数は自治体の数よりも多い。そう言えば、新田次郎の代表作である『芙蓉の人』は、主人公の千代子が富士山を見ている状況から始まる。

青梅市内にも、富士山がよく見える場所がある。東青梅から東方や霞丘陵の南側斜面などで、霞川に沿う藤木田圃は、富士山の容姿が立派に見える場所として広く知られ、快晴の日には、カメラを携えた人たちが訪れている。

過日、羽村市の山田さんから「昭和 34（1959）年の伊勢湾台風が通過した翌日、小曾木の富岡付近から、富士山が良く見えたことを周囲の人に話すが、誰も信用しない。」との話を伺った。富岡は黒沢川の下流で、周囲を小高い山地が囲んでいるため、「富士山は見えないだろう。」と、ほとんどの人が判断するようである。

黒沢川に沿って、現地で聞き込みをすると、柳川付近ではもちろんのこと、学校や郵便局がある荒田付近でも、永山丘陵や天寧寺尾根があるので、まったく見えない。岩蔵温泉付近からも見えない。ところが、それより東側で、フジイデンキから東方の米屋さん付近までは富岡富士見と呼ばれ、霞丘陵に突

出する鉄塔の右手に、富士山の山頂付近が小さく見える。住民に聞くと、家屋が少なく、樹木がまだ低かった昔は、現在よりも良く見えたと言う。山田さんの記憶は、間違いなかったのである。

太宰 治は、富岡から富士山を見たら、『富嶽百景』に、どのように表現するだろうか。

(文責 角田 清美)



七国峠からの眺望



富岡富士見からの眺望